

令和元年産 玄米・小麦粉の残留農薬・重金属(カドミウム)の分析結果

1. 分析依頼先 Eurofins Scientific 社
2. 分析日 令和2年1月21日～2月21日
3. 分析方法・検体数・検出限界

項目	試料	検体数	項目数	分析方法	検出限界(mg/kg.ppm)
残留農薬	玄米	19	235	GC-MS/MS ¹⁾	0.01(全項目)
	小麦粉	2	236	LC-MS/MS ²⁾	
重金属	玄米	19	1(カドミウム)	ICP-MS ³⁾	0.01

¹⁾ GC-MS/MS とは Gas Chromatography(ガスクロマトグラフィー分析法)ーMass Spectrometry(質量分析法)/Mass Spectrometry(質量分析法)の略です。

²⁾ LC-MS/MS とは Liquid Chromatography(液体クロマトグラフィー分析法)ーMass Spectrometry(質量分析法)/Mass Spectrometry(質量分析法)の略です。

³⁾ ICP-MS とは Inductively Coupled Plasma(誘導結合プラズマ分析法)/ Mass Spectrometry(質量分析法)の略です。

4. 検査結果

(1) 残留農薬検査

検査を実施した玄米19検体の残留農薬(235項目)は、すべて厚生労働省の基準値以下でした。

検査を実施した小麦粉2検体(規格パン・国産小麦パン)の残留農薬(236項目:グリホサートを含む)は、次のとおりでした。

規格パン	235項目は、すべて厚生労働省の基準値以下でした。 グリホサートは「小麦」の厚生労働省基準値以下でした。
国産小麦パン	236項目は、すべて厚生労働省の基準値以下でした。

(2) 重金属(カドミウム)検査

検査を実施した玄米19検体は、すべて厚生労働省の基準値以下でした。

5. 判定

問題はないと考えられます。